

次期総合計画の策定に係る各種審議会や委員会でのいただいた御意見の概要

1 会の名称

平成 29 年度第 1 回沿岸広域振興圏 釜石地区地域連携懇談会

2 県側出席者

沿岸広域振興局
政策地域部政策推進室
復興局復興推進課

3 開催日時

平成 29 年 12 月 18 日（月）13：30～15：30

4 主な御意見の概要

《沿岸広域振興圏についての現状認識と概ね 10 年後の沿岸広域振興圏について》

- ① 建設業者は、震災前、老朽化インフラを計画的に修繕しながら存続してきた。震災後は、施設、インフラの大部分が新しくなり、更新が不要となる。10 年後は、建設需要もピークアウトを向かえ、淘汰の時代を迎える。地元業者も半減してしまうと考えている。
- ② 2019 ワールドカップが釜石で開催されるが、多くの地域、世界の人々がこの地域を訪れる。インバウンドを含め交流人口が拡大する。他の開催地と比べ、この地域の強みは、「人のあたたかさ」。今までの歴史のなかの良いものを「強み」にしなが、何か変わらなければといった、勇気の持てる施策展開を期待する。
- ③ 子供をサポートする高校生の活動が注目される。高校生は、震災を経て、いろいろと地域を考えている。一方、これから生まれてくる子供たちは、直接震災を体験していない。地域に誇りを持ち、好きになるような取組を進めることが重要である。
- ④ 復興が進んでいるように見えるところと、なかなか進んでいないところがあり、復興進度の違いにより、住民の気持ちが一つになっていないように感じる。災害公営住宅での引きこもり、コミュニティの活性化などの対応が重要である。また、10 年後、地域の人口減を懸念している。まちなみが揃ってきたが、住んでいる方を見ると、大部分が高齢者である。5 年、10 年後を見ると、地域の人口が計算できる。若者が定着できるような、職場の整備などを望みたい。
- ⑤ これからは年寄りが増える。何もしないと病気になってしまうが、子供と交流することで、健康な老後が得られるのではないかと。子供が海とたわむれる機会をつくる、年寄りと子供が触れ合えば、子供も楽しく住めるのではないかと。また、現在の「環境基本計画」は、事業者や一般市民の役割が箇条書きになっているが、誰も読んでいない。絵に描いた餅である。(次期総合計画は) そのようなことにならないようにしてほしい。

- ⑥ 10年後の圏域は、震災で大分人口が減ったので、10年後にこれ以上に大幅に減ることはないと思う。漁業生産現場では、機械化を進めるなど、省力化の取組が必要である。
- ⑦ 最近、何かと比べている人が多い。都会の便利さ、収入の高さ、田舎の給料の安さ、比べてばかりであるが、少しの不便さを楽しさに変えていくことが必要である。また、(普通に、正直に生きる) 根っこを失わなければ、10年後の人口減少や限界集落など怖くない。普通の吉里吉里人として生きていきたい。
- ⑧ 後継者、担い手不足に困っているが、農業は定年後の方にも出来る業種であり、シルバー人材を活用することができれば、後期高齢者の医療費対策にもなると思う。生産年齢の人口、労働力も少なくなっていくので、人手の融通も困難になっていく。例えば、震災後の復興ボランティアのように、ボランティアツアーを組めないか。短期の就労でもよいので、観光とセットでやってはどうか。
- ⑨ 宮古―山田道路の開通で、通勤圏が拡大し、人材の確保に好影響と思われる反面、地域から人が流出する懸念など、その功罪の影響を良く見ていく必要もある。沿岸道路は、八戸、仙台とつながる効果に期待している。また、三鉄にサイクリング列車を導入するなど、観光資源として活用することが必要である。概ね10年後には、人口は減るが、例えば、災害公営住宅を活用して、外の人を住ませるなど、人口を増やす取組をできないか。10年後はすぐにやってくる。産業振興、新産業の創出なども重要課題。対応を進めて欲しい。
- ⑩ ノルウェーは、高鮮度保持などにより、サバをブランド化していると聞く。付加価値を高め、水産業者の収入の向上につなげている。県に対しては、リアス式海岸を活用した「養殖の先進県」を目指すこと、生産性の向上支援、原発のない県の優位性の活用、魚食の先進県を目指すことを要望したい。
- ⑪ 主婦の働き方を支援している中で、主婦が一步踏み出すことは大変と感じている。見えないところで、いろいろな悩みを抱えている。このようなところを汲み取り、行政と連携して取組ができればよいと思う。特に重要なのは、情報が受け取りやすいしくみづくり。また、情報発信が、県として出来ていないと感じる。自分は、釜石に移住して、本当によいところばかりと感じているが、このようなよいところが発信されていない。情報発信の強化が必要である。
- ⑫ 三陸産のサバ。巷では、「関サバ」が有名であるが、それに負けない品質と聞いている。山田のカキなど、いいものを知らせる工夫が必要であるが、岩手は下手である。震災を経て、道路が早く整備されている。これをいかに活用していくかが、この地域の振興にとってポイントである。
- ⑬ 岩手は、高血圧、心疾患、ワースト一位から三位までに入る。肥満も増加、大量飲酒、喫煙も問題である。特定検診、がん検診について、若い人が受けやすい体制を作ることが必要である。